

講義名	教養特講（観光学へのいざない）			授業形態	
担当教員	山川 拓也／伊賀 尚武／金 承珠／ 道前 美佐緒／西村 典芳／濱田 実／ 藤原 喜美子／山本 勝巳／関 梅	開講期・曜日・時限		前期 月曜日 4 時限	
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
		ナンバリング・コード			
主題と概要					
本科目は、「気づきのプログラム」を受講した学生に対し、以降の専門科目学修への誘いを意図したもので、次の段階に向けてのスタートラインに位置づけられるものである。具体的な学修の到達目標は「観光学への学修意欲の醸成」や「好奇心の発露」とし、「観光活動そのもの」や「関連する周辺事象」、「観光・イベントのビジネスや事業（旅行業、交通輸送業、宿泊業、プライダル業、イベント業、観光まちづくり等）」、そして、それらで必要とされる教養や語学習得に対する興味・関心を引き出すことに配慮する。尚、本科目は、観光学科に所属の全教員による「オムニバス形式でのリレー講義」で実施される。					
到達目標					
ツーリズムならびに関連する周辺事象、その背景にあるものに対する好奇心の発露が生じ、それらに対峙するための学修意欲をもつことができるようになる。					
提出課題					
・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」（responまたはCampus-Xsで実施予定） ・担当教員により、講義内・講義後に要提出課題を義務づけることがある。（各担当教員から個別に説明する）					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
課題に対する講評・解説等のフィードバック方法については、各オムニバス担当教員から個別に周知される。					
評価の基準					
下記による総合評価とする。 担当教員による各回評価の累積：100％ （受講や課題に対する各回の教員評価を持ち寄り、それを総合して判断・決定する） * 毎回の出席確認は、responやマークシート等を用いて厳格に実施する。 * 教員が指示する課題の提出がない場合、課題に対する得点は0（ゼロ）点となり、評価に影響を及ぼす。 * 累積の欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E） * 遅刻・早退（時間の長短を問わない）は、1回につき0.5回の欠席として算入する。 * 「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、1回につき0.5回の欠席として算入する。 * スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。 * ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れる場合、一定基準のもとで加点する。					
履修にあたっての注意・助言他					
本科目は、学部・学科における専門科目の学修に向けての誘い・入口であるとともに、学生が自身のキャリアを考えるにあたっての一助になることも意図されている。重要度の高い導入科目であるがゆえ、意義を十分に理解して受講に臨むことを切に期待する。					
教科書					
.使用しない。					
参考図書					
.なし。					

【ガイダンス】（山川）：『観光学科で何を学ぶのか—現代ツーリズムを理解するための多様で学際的な視点』	
【ツーリズムと余暇】（西村）：国民の余暇活動に対する需要増大および意識変化の話から、観光と余暇の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと健康】（西村）：温泉療法、運動療法、森林セラピーといった自然療法の話から、観光と健康の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと地域活性】（金）：日本の温泉地における地域コミュニティの話から、観光と地域活性の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと社会政策】（金）：実際に行われている神戸市の政策・施策の話から、観光と社会政策の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと移動】（濱田）：移動手段である交通機関の歴史と各輸送事業の特性の話から、観光と移動の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと空間】（伊賀）：「くつろぎ」と「わくわく感」を兼ね備えた魅力的な宿泊空間の話から、観光と空間の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムとホスピタリティ】（道前）：「ホスピタリティ」の用語・概念に関する話から、観光とホスピタリティの関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと地域文化】（藤原）：日本の歴史の中で形成されてきた「地域における町並み」の特色や魅力の話から、観光と地域文化の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムとコミュニケーション】（濱田）：観光サービス産業において頻繁に使われる用語や表現等の話から、英語を中心とする外国語コミュニケーション力の重要性を概観・考察する。	
【ツーリズムとグローバル化】（関）：国際観光における中国語コミュニケーションの位置づけと重要性の話から、観光とグローバル化の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと異文化交流・異文化理解】（山本）：英語を中心に人間でなくてはならないコミュニケーションの側面とは何か？という話から、観光と異文化交流・異文化理解の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと消費経済】（山川）：現代的な消費行動の一つとされる「イミ消費」やオーバーツーリズム問題の再燃に関する話から、観光と消費経済の関係を概観・考察する。	
【ツーリズムと持続可能性】（山川）：世界的な取り組みが求められるSDGs（持続可能な開発目標）の話から、観光とサステナビリティ（持続可能性）の関係を概観・考察する。	
【まとめと総括】（山川）：大学で現代ツーリズムを学ぶ意義、後期以降の学修に向けて	

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
【予習：120分／回】 ・新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスして授業内容に関連する情報を収集しておく等、効率的かつ効果的な受講に備える。	
【復習：120分／回】 ・当日の授業内容を整理するとともに、指示された課題に取り組むことにより、学修の効果的定着に努める。	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
本学科では、卒業認定・学位授与の方針として、観光学科の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき能力（観光事業の仕組みや経営機軸を把握・理解する思考力、顧客満足を得るために必要なホスピタリティとコミュニケーション力、課題解決や新たな価値を自ら作り出す想像力と提案力）を示し、その涵養によって観光業界で就業できるようにすることを目指している。本科目は、観光学科における全ての専門的な学修の入口に位置づけられるものであり、本学科のみならず本学ならびに学部が定める卒業認定・学位授与の方針とも密に関連する。	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
・毎回の授業後に実施する学修課題への取り組みにおいて、LMS（Campus-Xs）を活用する。	
・必要に応じて授業中でもrespon等を使用し、意見収集を行うことがある。	

実務経験の有無及び活用	
【西村】旅行会社の経営に携わり、心と体の健康のための新しいツーリズム「ヘルスツーリズム」を研究し、地域の健康づくりを通じて活性化の手伝いをしている。	
【濱田】航空会社での勤務（旅客・物流）を経験しており、運輸機関の全体の発展とエアラインビジネス戦略等を紹介し、観光産業における交通機関の果たすべき役割を考察する機会を提示する。	
【伊賀】外資系ホテルでの営業とマーケティング経験を有する。宿泊施設の付加価値創造とブランディングによる顧客づくりについて共に研究していきたい。	
【山川】旅行産業での経験（欧州を中心とする海外旅行の企画造成、営業、添乗、マーケティング戦略策定、海外駐在等）と研究知見を合わせ、「観光を消費すること」について考える機会を提供する。	
【道前】プライダルコンサルタントならびに福祉研究者としての経験と知見をもとに、ホスピタリティに関する学生の学修意欲に応える。	

備考	
・観光学科の全教員（9名）で本科目を運営する。伊賀 尚武／金 承珠／道前 美佐緒／西村 典芳／濱田 実／藤原 喜美子／山川 拓也（主幹）／山本 勝巳／関 梅<50音順>	
・新型コロナウイルスの感染状況ならびに科目の進捗状況等によって授業方法や内容を変更する場合があります。その際には事前に告知する。	